



英国 JETAA の活動について

(一財)自治体国際化協会ロンドン事務所 所長補佐 吉嶋 大希 (和歌山県派遣)

JETAA について



JET プログラム同窓会 JETAA (JET Alumni Association) は JET プログラムを終了した卒業生有志を中心に 1989 年に発足した親睦団体です。JETAA は、日本と JET プログラムに参加している諸外国が様々な活動を通じて相互理解を深めることを目的として世界 16 カ国、53 の地域で活動しています。

英国では現在、4 つ (ロンドン、ミッドランズ、ノースウェスト、スコットランド) の支部が活動しています。英国の JETAA は、英国 JETAA 全体として、またそれぞれの支部ごとに、新規 JET プログラム参加者のためのオリエンテーション、プログラムを終了して帰国した元 JET プログラム参加者を対象としたキャリア・イベント、日本を紹介する文化交流イベントや会員が交流するソーシャル・イベントを開催しています。

オリエンテーション

これから英国を立つ JET プログラム参加者のためのイベント

英国 JETAA の各支部は、これから JET プログラムに参加する者やその家族のため、出国前の初夏の時期にオリエンテーションや交流会などのイベントを実施しています。新規 JET プログラム参加者に対しては出発前に大使館主催の公式オリエンテーションが開催されますが、そうした公式のオリエンテーションではなかなか聞くことができない実際の体験談を先輩の元 JET プログラム参加者から直接聞くことができる機会はとても好評です。特に、JET プログラム参加者の家族が安心して参加者を日本へ送り出すことに大いに役立っています。

ロンドン支部では、新規 JET プログラム参加者の数も多いので、ロンドンで開催される公式のオリエンテ-

ーションに対して、いわば非公式のオリエンテーションを開催しています。新規 JET プログラム参加者の数がそれほど多くないミッドランズ支部やノースウェスト支部では、カフェやパブでアットホームな交流会を開催しています。スコットランド支部では、新旧 JET プログラム参加者がバーベキューで交流することが恒例ですが、なぜか毎年天気恵まれにくいそうです。

ソーシャル・イベント

ロンドン市内でパブクイズ

会員相互の交流は、もちろん英国 JETAA の主要な目的の一つです。

例えば、ロンドン支部では、毎月 1 回程度のペースでパブソーシャルやブッククラブなど気軽に参加することのできるイベントを開催しています。2017 年 3 月に開催したパブクイズでは、参加料 2 ポンドで約 50 名が参加し、賞品には日本酒など日本に関するものが用意されていました。ちなみに、参加料は日本のフード・セーフティネットを支援する団体に全額寄付されました。

多くの元 JET プログラム参加者は、日本から帰国した後も何らかの形で日本との関係を保っていたと考えていますが、仕事をしながら JETAA の活動に積極的に関与することはなかなか難しいことです。JETAA にとってもアクティブな新会員を見つけることはとても重要に



パブクイズの様子

なっています。そのため、英国 JETAA の各支部では、気軽に参加することのできるこのようなイベントを増やしたり、より魅力的なイベントを開催しようと試行錯誤を続けています。

文化交流イベント

スコットランドの小学校で日本デー

英国 JETAA の各支部は、日本文化をそれぞれの地域で紹介する取り組みも行っています。

例えば、スコットランド支部では、2016年4月、「日本デー」というイベントをノース・バーウィック・ロー・プライマリー・スクール（小学校）で行い、魅力的な日本の文化をスコットランドの子どもたちに紹介しました。空手や太鼓のパフォーマンスを披露し、子どもたちは、書道や折り紙、お寿司作り、簡単な日本語のレッスンを体験しました。



太鼓のデモンストレーションの様子

キャリア・イベント

現在、英国 JETAA では、特にキャリアサポートに重点を置いており、ビジネス特化型 SNS である LinkedIn などを活用しながら、英国 JETAA のネットワークをよりプロフェッショナルなものにしていこうと考えています。会員が楽しむためのソーシャル・イベントの開催が JETAA のような同窓会組織にとって重要であることは論を待ちませんが、30周年を迎えた JET プログラムが誇るシニアな（既に社会経験豊かな）元プログラム参加者に JETAA のネットワークに参加してもらうためには、ソーシャル・イベントだけではダメで、プロフェッショナルな要素を提供していく必要があると考えているからです。

JET プログラムを終了した帰国者のためのキャリア・セミナー

英国 JETAA では、毎年9月にクレアロンドン事務所と在英国日本国大使館が主催する帰国者レセプションにあわせて、日本から英国に帰国したプログラム参加者の

ためのキャリア・イベントを開催することが恒例になっています。

2016年9月に開催されたキャリア・イベントでは、帰国したばかりの JET プログラム参加者が、金融、メディア、英国政府、大学研究機関など様々な分野で活躍する先輩の元 JET プログラム参加者から、その分野で職を得るには具体的にどうすればよいか、その分野で活かすことができる JET プログラム参加者の強みはどのようなものかなどについて熱心に話を聞きました。実践的な CV（履歴書）クリニックも提供されました。クレアロンドン事務所でも、できるだけ多くの日系企業関係者をキャリア・イベントの後に開催される帰国者レセプションに招待して相乗効果が生まれるようにしています。



JET プログラムを終了した帰国者のためのキャリアサポートイベントの様子

JETAA 学術関係者イベント

2016年12月、シェフィールド大学の東アジア研究学科において、学術研究分野に携わる元 JET プログラム参加者の学際横断的なネットワークを構築しようとする初めての会合が行われました。会合には、英国をはじめ、アイルランド、ドイツ、オランダから約20名の学術研究者、学術研究者を目指す博士課程の学生などが参加しました。会合では、理系・文系などの区別に関係なく、それぞれの参加者が現在行っている研究内容について紹介しました。こうした試みは、高度に細分化されている現在の学術研究ではとても貴重なもので、それぞれの参加者にとって大いに刺激になったようです。主催した元 JET プログラム参加者は、継続的に開催し、将来的にはアイルランド、フランス、ドイツの元 JET 学術研究者も巻き込んだヨーロッパ横断的なネットワークにしたいと語っていました。



シェフィールド大学での会合の様子

30周年記念レセプション

英国 JETAA は、2017 年 3 月、日英議員連盟と共催で JET プログラム 30 周年記念レセプションを英国国会議事堂内で開催しました。クリアの JET プログラム 30 周年記念式典にあわせて開催された JETAA インターナショナルの会議からの各国 JETAA においても JET プログラムの 30 周年を記念するイベントを開催してほしいという要請に応えたものです。レセプションには、元 JET プログラム参加者のほかに、英国国会議員や駐英国日本国大使など JET プログラムや英国 JETAA に関係がある日英の約 200 名が参加し、大変盛況に開催されました。英国内各地域の元 JET プログラム参加者が日系企業関係者との絆を深め、英国 JETAA の今後の活動の幅を広げることができた大変貴重な機会となりました。



英国 JETAA 代表セラ・パーソンズ氏のスピーチの様子

おわりに

こうした様々なイベントを通じて、JET プログラムが 30 年間続いてきたことの素晴らしさ、JETAA の活動は偏に彼らの「気持ち、やる気」によっていることをひしひしと感じます。

英国、特にロンドンでは、英国 JETAA 以外にも日本を紹介するために活動している組織が本当に多くありま

す。ただし、そうした組織においても、元 JET プログラム経験者が活躍していることが多く、元 JET プログラム経験者の存在は非常に大きいのです。

また、大学で日本語を専攻している学生も多く、様々な場所で JET プログラムの知名度を感じます。例えば、SOAS University of London (ロンドン大学 アジア・アフリカ研究大学院) で日本語を学ぶ学生が数多くいます。私は彼らと交流する機会がありますが、ほとんどの学生が JET プログラムについて知っており、参加を目指す学生も少なくありません。SOAS 日本協会会長のファラ・モハメッド氏は、JET プログラムについて、「教育と日本に興味を持つことのできる素晴らしい事業だと思います。このプログラムに参加することで他では経験することができないほど日本の文化に没頭することになるでしょう。また、地方に配属されることで参加者が感じるものが、彼らにとって素晴らしい経験になると思います。」と話していました。



SOAS でのランゲージ・エクステンジの様子

英国の実に様々な場所で、元 JET プログラム参加者に会う度に、途端に日本のことを話題にして話が弾みます。日本で住んでいた地域のことを周りの人々に楽しそうに話してくれます。JET プログラム終了後においても、元 JET プログラム参加者たちが日本とのつながりを意識してくれていることは、日本の情報発信の大きなアンテナとなり、国際社会の日本に対する理解をより一層進めていくことになると思っています。

JET プログラム参加者を受け入れることで日本国内での国際的な理解が進むことはもちろんですが、彼らは、帰国した後も自分たちが住んでいた日本の地域を自然と PR してくれています。異国で出会った出来事や人々は印象に残りやすいもので、このことは JET プログラム参加者も感じているのではないかと思います。

JET プログラムを通じた日本の国際化が国内外でこれからも進んで行くことを期待しています。